

自己改革の取り組み

<目 標> 農業者の所得増大 農業生産の拡大 地域の活性化

営農支援体制の充実

●農業チャレンジ支援事業の実施

平成27年度から令和元年度までの5年間に1億5,000万円の予算を確保し、新規作物や加工品開発に関する事業を支援していきます。4年間に継続事業を含めた16件が採択され、生産組織や地域全体で取り組み、新品種の導入や産地化、地域振興などに活用されています。



【4年間の実績】

	助成金額 (円)	内 容
平成27年度	4,800,500	「長田唐芋」共同種芋生産による面積拡大、キウイ新品種「東京ゴールド」早期普及、薫科ブロック誘客・PR事業、レタス栽培による所得向上、葉ねぎ契約販売品質向上 <5件>
平成28年度	6,813,539	在来作物の収量向上と加工商品の開発、地域特産蓮根の省力栽培の開発と普及、桃せん孔細菌病対策と農地の集積・改植による産地維持、内牧かぶせ茶・碾茶の生産と普及 <4件>
平成29年度	5,261,532	かぶせ茶栽培の普及による地域活性化、地域の情報発信基地としての店舗作り、大河内地区茶振興活性化プロジェクト、オリーブの産地化 <5件>
平成30年度	13,568,900	マム(菊) 販売品質向上 柑橘品質向上マルチ栽培の普及 <2件>
4年間の合計	30,444,471	

*継続事業を含む
*詳細はP11から掲載

● 営農支援体制の強化

平成30年4月から各営農経済センターに配置したTAC担当職員を中心に、出向く体制を強化しました。営農指導や農業資金の活用、経営改善指導など幅広いサポートをしています。

また、営農経済センターでは「ITを活用した生産性の向上」などのテーマを決めて課題に取り組み、生育環境や作業状況のデータ化・情報の共有をすることで生産性の向上、高品質化、高付加価値化に貢献していきます。



環境モニタリング「みどりクラウド」の導入試験

● 担い手支援体制の強化

・ 農業後継者塾「^{みらい}魅来」の開講

平成29年度、農業後継者と専任の営農指導員がともに技術や農業経営を学ぶ農業後継者塾を開講し、12人の塾生が卒業しました。我が家の農業経営を振り返り、理解し、「明確な将来ビジョン」を持って実践する機会としています。



後継者と営農指導員がペアで取り組む「魅来」

・ 新規就農者養成講座「新生」の開講

生産部会と連携し、産地維持を含めた受け入れ体制を整備し、新規就農希望者に対し就農に関する相談・支援を行っています。平成30年度は4人が参加し、就農・委員会加入につなげました。

・ 無料職業紹介所の開設

平成30年3月、農作業の人手不足解消を目的に開設した「JA静岡市無料職業紹介所」は、県下の農業求人サイト「しずおかの農業で働こう」と連携しています。平成31年3月末までの実績は、求人20件、応募者40人、16件が成立しました。



無料職業紹介所で雇用契約が成立

【平成 30 年度 農業振興支援対策の実績】

事業名		実績	
農業 振 興 支 援	茶園改植支援対策	59 件 557.81a	557,810 円
	茶園転換支援対策	20 件 98.44a	98,440 円
	ハウス新設支援対策	10 件 21.22a	1,712,133 円
	野生鳥獣害被害防止支援対策	電柵等 36 件、地域一体型集団防護柵 5 件	821,000 円
	耕作放棄地対策	4,332 m ² 解消	
	部農会組織支援事業	7 部農会	142,700 円
	就農者等支援対策	5 件 認定新規就農者 1 名、親元就農者 1 名育成	1,364,700 円
合 計			4,696,783 円
融 資	農業関係融資	70 件	454,500,000 円
	青年等就農資金	1 件	12,930,000 円
合 計			467,430,000 円

【5 年間の実績】

<千円>

	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	合計
茶改植支援	285	368	377	381	558	1,969
茶転換支援	-	443	492	283	98	1,316
ハウス支援	300	200	1,697	2,039	1,712	5,948
鳥獣害被害	1,935	2,435	2,220	1,505	821	8,916
部農会支援	148	204	138	118	143	751
就農者支援	-	-	-	280	1,365	1,645
合計	2,668	3,650	4,924	4,606	4,697	20,545

農業経営力の向上

●静岡本山茶ブランド化と産地維持

本山茶の全国的な認知度向上とブランドの確立を通して、販路や消費拡大につなげることを目的に平成 30 年度、地理的表示（G I）保護制度登録を目指し、準備委員会を経て協議会を設立。申請の準備を進めています。

●茶の輸出へ向けての取り組み

EU への輸出を視野に、実証茶園で防除基準・残留農薬分析などを行い「EU 輸出向け茶生産基準」の開示に向けて取り組んでいます。ヨーロッパでは農産物の「品質」「安全性」「環境への配慮」などの一定基準を満たした農作物に認められる GAP 認証が重要視されるため、GAP 取組意向茶工場の把握と GAP 制度の認識向上、研修会の開催など周知活動と指導体制の強化を進めています。

販売力の強化

●販売体制の強化

・営業力の強化

販売センターを中心に営業力の強化に努め、農産物の有利販売につなげるため市場、卸店、小売店などとのマッチングを進めました。

成果

◇イチゴ：H30＝5億885万円（前年比100.4%）

◇柑橘：H30＝1億4,137万円（前年比100.3%）

◇新規取引先＝日本平ホテル、あおぞらキンダーガーデンなど4件増加 合計22件

◇新規取引FM＝JAたがわ、JAたじまなど4件増加 合計44件

・新商品の開発

茶加工事業では本山茶の優良品質を前面に出し、新規取引先の開拓と若年層に向け、スルガエレガントのフレーバーティーや粉末茶などの新商品の開発に注力しました。



・ブランドショップ「じまん館」のオープン

平成30年12月、管内の特産品や加工品を集めた店舗として千代田支店敷地内にプレオープンし、今年4月にグランドオープンしました。JA静岡市ブランドのPRとネット通販などの充実を目指します。併設の広場には農畜産物の紹介パネル、ティーサーバーやネット通販できるタッチパネルを設置し、JAブランドのおいしさと魅力を発信していきます。



●じまん市の販売強化

じまん市事業では、出荷者の所得向上を最大目的として掲げ、販売・営農部門が連携し、講習会や圃場巡回による生産技術の向上と生産量の拡大、有利販売につなげています。平成28年度から始まった地場出荷米の買取販売は順調に進み、本年度は前年比133%、約1,130袋をじまん市で販売しました。

成果

◇新規出荷者＝30人 ◇山間地を中心とした栽培講習会＝年6回開催

◇地場出荷米取扱量（玄米）：H28年産＝25t、H29年産＝25.3t、H30年産＝34t

◇食育ソムリエによる食の提案＝各じまん市で週1回試食会を開催

生産資材のコスト削減

物流センター制の導入と、1ブロック1営農経済センターに購買店舗を集約し一括仕入れをすることにより、価格の引き下げ、取扱い品目の増加に努めました。



成果

- ◇肥料特別価格商品 14品目の価格を引き下げ
- ◇JAしみずとの共同仕入れなどによる農薬価格 30品目の引き下げ

地域の活性化

●教育文化活動の取り組み

・「組合員大学」

平成30年4月、JA運動のけん引役となるリーダーの育成を目指し開講。30人が受講し「協同組合とは」「10年後の地域農業を考える」などの講座や視察、情報交換を行いました。



・女性大学

JAを学びと仲間づくりの場とする2年制の女性大学「シズ・カレ」は、JAファンづくりや卒業生の女性部加入にもつながっています。今までに98人が参加し、9月には6期生を迎えます。



●食と農を基軸とした活動

・食農教室

公立こども園の教諭を対象とした野菜作り講習会の開催、営農指導員や生産部会、青壮年部員や女性部員などが小学校などへ出向き、地元の農産物の栽培・加工品作りなどを通して農業の楽しさ、大切さを伝える活動に取り組んでいます。



・1支店1協同活動

JAが「地域の拠り所」となることを目指し、全支店が取り組み、食農体験活動や地域の祭り・イベントへの参加、店周辺や農道の清掃活動など28のテーマで42の事業を行いました。



総合事業をくらしに役立てる

●PRチラシの活用

J Aの総合事業を広く地域住民に知ってもらおうと、PRチラシを作成し、キャンペーンや農業祭などで配布、支店やATMコーナーに設置しています。

また、全じまん市に設置したインフォメーションボードに「支店だより」や「1支店1協同活動」の様子などと共に掲示しています。

●准組合員向け広報誌の創刊

農業やJ A事業・活動への理解を深めてもらうため、また、J Aの自己改革の取り組みの周知に向け「准組合員さんこんにちは」を創刊し、全准組合員へ届けました。

●准組合員の農業体験

住宅ローンなどの利用者とその家族を対象にジャガイモ、ジャンボラッカセイ、サツマイモの収穫体験などを行い、111人が参加しました。

●じまん市の利用者を総合事業の利用者へ

じまん市の利用者にJ Aの総合事業をPRし、利用へつなげようと「からだセミナー」や「終活セミナー」などを開催しています。南部じまん市では初めて園児の絵手紙展示を行いました。



役職員の意識改革「職場の改革宣言」「私の改革宣言」

全役職員が、事業目標達成のために課題を認識・共有し、組合員や地域住民の皆さんから「J A静岡市は必要だ」と評価していただけるよう、一人ひとりが具体的にどう行動するかを「改革宣言」として掲げ、実践しています。



意識・情報共有は対話から

3か年計画や自己改革の取り組みの成果については、今後も座談会や各組織との意見交換会、アンケート調査などさまざまな機会を通じてお伝えし、皆さまの“声”を聞き、JA運営に活かしてまいります。

●運営委員会の見直し

組合員の皆さんの意見を活かしたJA運営を行うため、運営委員会の構成員や開催方法を見直しました。また、広報誌に「理事会だより」を掲載し、理事会での決定事項を報告するなど情報提供を積極的に行っています。



●ふれあい座談会の開催

❖テーマ「自己改革の取り組みと今後の地域農業・地域社会のあり方」
H30年10月～11月／46会場／延べ866名参加

いただいた意見は事業に反映させるとともに、「質疑応答集」にまとめて正組合員の皆さまにお配りしました。

●常勤役員・青壮年部・女性部との意見交換会の開催

H30年8月21日／部員17名、役職員10名参加

「市街化区域では農地の確保が難しいため、基盤整備を進めてほしい」などの意見
⇒事業化できる地域を絞り込み調査を進めています。整備後の利活用にご協力ください。

●認定農業者との情報交換会

H30年6月19～22日／延べ38名参加

「補助事業等の提案や申請サポートを積極的に行ってほしい」などの意見
⇒経営規模拡大に向けた農地輪転や融資を行い、2月には認定農業者研修会を開催しました。

●南部じまん市出荷委員会役員と消費者との対話会

H30年6月29日／会員6名、消費者12名参加

「出荷物の安全性が気になる」などの意見
⇒農薬の使用履歴を事前に提出して違反がないものだけ出荷しています。また、毎月残留農薬検査を行っています。